Talk about wheel brand! #005

SCHWERT（シュヴァート）

時代が求めるものを作り続ける

取材協力:ワーク ☎06-6746-2859 https://www.work-wheels.co.jp

その洗練されたデザインとカスタムオーダーできる豊富なカラーによって、車種を問わず幅広く支持されているシュヴァート。
特に大ヒットとなったSC4はリリースから10年が過ぎたにもかかわらず、今なおカタログラインアップされるほどのロングセラーだ。
ここではワーク広告企画課の亀石氏にお話しを伺いながら、シュヴァートというブランドの魅力を徹底的に追求してみた。

シュヴァートの始まりはコンフォートVIPから

シュヴァートは2007年にVIPセダンユーザーをターゲットに、ホイールによる極限の主張をテーマにしたラグジュアリーホイールシリーズ「ヴァリアンツァー・シュヴァート」として誕生。上品な大人のためのコンフォートVIPをコンセプトにした、ヴァリアンツァーシリーズの上位グレードとしてSC1とSC3からリリース。同年後半にはディッシュデザインのSC3を加えバリエーションを広げている。

「シュヴァートのデザイン的な特徴は、ネーミングが示すように、エッジの効いた西洋の剣（SCHWERT＝ドイツ語で剣を表す）をモチーフにしたシャープな意匠が特徴です。当初はVIPスタイルのセダンをターゲットにリリースしていましたから、プレミアムで個性的なブラックポリッシュをメインに設定して、2トーンカラーが映えるデザインを投入しました。またスポークにWORKの文字を鋳出しで入れるなど（SC1）、ワークの中でも最先端の技術を取り入れたり、色々なチャレンジを試みたブランドでもありますと」と亀石氏。

そして2008年に「剣の乱舞」とサブタイトルが付けられた大ヒット作「SC4」が登場。細身の5スポークを重ね合わせたようなダブルディスクデザインは、まさに剣のモチーフが散りばめられたシャープかつ個性的なデザインで、スポーク先端をリム奥へ落とすことでリムの深さも強調。カラーリングも上側スポークが切削カラー、下側スポークはブラックでツートンカラーを強調。ブラックポリッシュを全面に押し出したカラーリングや、深いリム、そして2ピース構造ならではのミリ単位で設定できるオーダーインセットなどが、ドレスアップ指向のオーナー達に熱狂的に支持され大ヒットにつながった。

「SC4はダブルディスクデザインにしても、ブラックポリッシュカラーにしても、当時の最先端のデザインや色を取り入れたモデルで、さらにミリ単位のインセット設定できるオーダーインセットというシステムも珍しかった頃なので、新しいものが好きなコダワリの強いユーザーさん達に受け入れられたようですね。2008年からディスクカラーをオーダーできるカスタムオーダープランを始めたのですが、これがまた人とは違うものを求めるユーザーさんに人気となって、セダンだけでなく、ミニバンからKカー、SUVまで広く浸透してもらえるホイールになりました」。

実はこのSC4からネーミングが、ヴァリアンツァー・シュヴァートからシュヴァートのみに変更。ブランドの定着や、よりラグジュアリーなスタイルへと、時代に合わせてブランドも進化。その後、スポークとスッシュを融合させたSC5、より凝ったダブルディスクデザインが与えられたSC6へと展開。1モデルごとに特徴的なデザインを取り入れたワークのこだわり。それがユーザーに認められ、人気シリーズとして定着したのが初代シュヴァートといえる。

初代シュヴァートで唯一、現在も販売されているSC4。剣の乱舞をイメージしたダブルディスクデザインなど、シュヴァートらしさが顕立つ。

7年の空白を経て登場した新生シュヴァート2タイプ

シュヴァートは2011年にSC6をリリースした後、しばらくの間新作のリリースを休止。2015年1月に新生シュヴァートが登場する。この間、約7年の空白。これは何を意味するのか？

「2012年あたりから新車のデザインが大きく変化しているんですね。CX-5（2012年）や60ハリアー（2013年）のヒットでSUVが人気になったり、50プリウス（2015年）やCHR（2016年）などコンパクトだけど個性的なデザインが増えたりしている。クルマのデザインが変化しているということは、当然それに似合うホイールのデザインも変化します。新しいクルマにも似合う新しいシュヴァートを出そうと試行錯誤を繰り返してきたのですが、その結果2018年になってしまった……というのが実際のところなんです。もちろんその間にホイールの製造技術も進化していますので、最新の技術とデザインを取り入れて出来上がったのが新しいシュヴァートであるクヴェルとレグニッツなんです」。

新生シュヴァート。クヴェルとレグニッツというネーミングは、これまでの英数字ではなく、名前そのものに意味を持たせたもの。どちらもドイツ語で水に関係するネーミングであり、シュヴァート伝統の剣の造形をベースにしながら流れるような水の曲線美を採用。この流麗なデザインは高度な鋳造技術が可能にしたものであり、美しいアールや曲面を活かすため切削せず柔らかさをアピールするカラーリングに変更。デザイン・技術・カラーリング・ネーミングすべての面で新しいシュヴァートを誕生させている。

「新生シュヴァートは、SC1から続いている剣のデザインをモチーフにしながら、現代の鋳造技術を最大限に活かした柔らかく新しいデザインと、それを引き立てるカラーがポイントです。カラーに関しては、これまでシュヴァートといえばブラックポリッシュでしたが、エッジのハイライトが出やすく立体感を強調しやすい新色を用意しました。すべての面で新しくなったシュヴァートをぜひチェックしてください」。

ワーク渾身の技術とデザインを投入した新生シュヴァート。第一弾となるクヴェルとレグニッツは、どちらも19～21インチのサイズで登場したが、最近15～18インチのワンピースモデル「クヴェル ソロ」が早くも登場。その展開の早さは、初代がSC1からSC6までスピーディに広がったように、新生シュヴァートも今後大きく展開していくことを予測させる。今後の展開が大いに楽しみなシュヴァートである。

第二営業部 広告企画課
亀石貴之
「シュヴァートは、ピックアップした皆さんの声を最先端の技術とデザインによって製品化してきたホイールです。新しいシュヴァートのためにも多くのご意見をお聞かせください」。

Photos by ガンツ Text by 武田真吾

デザイン・技術・カラー・ネーミング すべての面でシュヴァートは新しくなった

鋳造ホイールの限界に挑戦した曲線美

SCHWERT QUELL
シュヴァートクヴェル
アールの異なる曲面を組み合わせて誕生した立体的なスポーク。リム側天面はわずか幅4mmの曲面。これが鋳造ならではの造形だ。
SIZE●19×7.5～21×12.5
PRICE●67万9000円～117万5000円
COLOR●プリアントシルバーブラック、シルキーリッチシルバー

SCHWERT REGNITZ
シュヴァートレグニッツ
20本のスポークで構成されるフィンデザイン。細いスポークは天面から側面まで曲線と曲面で構成され、柔らかい表情を生み出す。
SIZE●19×7.5～21×12.5
PRICE●67万9000円～117万5000円
COLOR●プリアントシルバーブラック、シルキーリッチシルバー